

企画情報部報（平成二十六年）

異 動（平成二十七年四月一日付を含む）

企画情報部長田中淳は平成二十六年十月一日付で東京文化財研究所副所長（企画情報部長・文化財アーカイブズ室長兼務）となった。

副所長田中淳は平成二十七年四月一日付で企画情報部長・文化財アーカイブズ室長兼務を免ぜられた。

企画情報部副部長山梨絵美子は平成二十七年四月一日付で企画情報部長となった。

企画情報部文化形成研究室長津田徹英は平成二十七年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室長となった。

企画情報部主任研究員小林達朗は平成二十七年四月一日付で文化形成研究室長となった。

保存修復科学センター保存科学研究室長佐野千絵は平成二十七年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室兼務を免ぜられた。

保存修復科学センター分析科学研究室長早川泰弘は平成二十七年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室兼務となった。

安永拓世は平成二十七年一月一日付で企画情報部研究員に採用された。

企画情報部アシエイト・フェローの河合大介は平成二十七年三月三十一日付で退職し、四月一日付で客員研究員となった。

田所泰は平成二十七年四月一日付で企画情報部アシエイト・フェローに採用された。

オープンレクチャー
第四十八回目のオープンレクチャーは、「モノ／イメージとの対話」をテーマに

掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催した。

十月三十一日（金曜日）午後一時半～四時半

一流相承系図（絵系図）の構想と機能

津田徹英

院政期絵画における二つの美の原理―似絵の成立をめぐる―

名古屋大学 伊藤大輔

十一月一日（土曜日）午後一時半～四時半

仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて

塩谷 純

戦争の「表象と本物」

ブルボンスタジオ 高橋裕二
千葉工業大学 河田明久

黒田清輝共催展

昭和五十二年以来、毎年行ってきた黒田清輝共催展（近代日本洋画の巨匠黒田清輝展）を六月七日（土）から七月二十一日（月・祝）まで、京都文化博物館で開催した。

なお、黒田記念館のリニューアル通年開館に伴い、共催展はこれをもって了となった。

黒田記念館

耐震工事のため、平成二十四年より休館していた黒田記念館は、平成二十七年一月二日にリニューアル・オープンした。

研究会

四月二十一日 廉泉の大村西崖宛書簡について 東京工業大学 戦 暁 梅

五月二十二日 国際シンポジウム「かたち」再考」事後研究会

現代美術におけるかたち―国際美術展を中心に

山口大学 藤川 哲

かたちをめぐる日本美術史の可能性―西洋美術史からの視点

東京藝術大学 佐藤直樹

六月二十四日 貞明皇后のイメージ―二十世紀初頭の日本社会における

「女らしさ」の変遷

アメリカ・カンザス大学 ミラー・アリソン

彫刻家・新海竹太郎の遺した資料について

大分大学 田中修二

七月二十九日

平安木彫像における内割りの始源をめぐって

津田徹英

八月六日

黒田清輝宛外国人留学生書簡 影印・翻刻・解題

東京藝術大学 吉田千鶴子

藤島武二からの黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について

実践女子大学 児島 薫

九月三十日

黒田清輝『昔語り』再考

山梨絵美子

岸田劉生と古屋芳雄

―劉生の「駒沢村新町」療養期を中心に―

田中 淳

十二月九日

南蛮漆器書見台編年試論

小林公治

東京国立博物館蔵 国宝・普賢菩薩像の表現

附論、仏画における「莊嚴」

小林達朗

一月二十七日

美術文献情報をめぐる最近の国際動向

―米国ゲティ研究所と「アート・ディスプレイ」―

グループ目録を中心に― 国立西洋美術館 川口雅子

韓国「東洋画」

韓国・光云大学校 稲葉真以

三月二十四日

反芸術・脱主体化・匿名性

―山手線事件と赤瀬川原平を中心に―

河合大介

観光芸術多摩川展パノラマ図を観る

―富士山、機関車、少女、井戸

橘川英規

刊 行 物

『大徳寺伝来五百羅漢図』

平成二十六年五月

第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書

『「かたち」再考―開かれた語りのために―』

平成二十六年十二月

『日本美術年鑑 平成二十五年度版』

平成二十七年三月